授業科目等の概要

（教員養成専門課程保育科）令和7年度入学生

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キリスト教概論	キリスト教及び聖書の基本知識を習得する。これにより、学園の建学の精神であるキリスト教に基づく「愛と奉仕」を深く理解する。	1通	30	2	○			○			○	
○			法学（日本国憲法）	日本国憲法の基本的な考え方（基本的人権の尊重・国民主権・平和主義）及び近代市民法ｼｽﾃﾑの特徴を学び、現代日本の法をめぐる主要な課題を理解する。	1後	30	2	○			○			○	
○			体育理論	ヒトの形態・機能・体力の変化と、運動とのかかわりを理解する。乳幼児期から思春期までの発育発達について、体力特製の加齢変化、運動指導の実例等から子ども達の成長という現象を多角的に捉えられる目を培う。	1後	15	1	○			○			○	
○			体育実技	ジャグリング、バランスボール、短・長なわを用いた運動を通して「できない」が「できる」ようになっていく過程を経験し、指導者としての重要な資質を形成する。	2前	30	2			○	○			○	
○			外国語コミュニケーション	童謡・日常及び学校生活の英語リスニング・会話・文法等を通して、保育現場で使う英語表現とコミュニケーション力を身につける。	1後	30	2		○		○			○	
○			情報機器演習	保育素材等を用い、Word・Excel・PowerPointの基本的な操作を学ぶ。又情報機器の保育・教育場面への応用技術も身につける。	1前	30	2		○		○			○	
○			身体表現	領域「表現」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。特に、領域「表現」に示された保育内容を理解した上で、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な身体表現や環境構成などについて実践的に学ぶ。また、身体表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、乳幼児の表現を支えるための感性を養う。	1前	30	1		○		○		○		
○			子どもと健康	領域「健康」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。特に、子どもの運動発達や取り巻く環境、及び領域「健康」に示された保育内容を理解した上で、子どもの健康的な生活と運動遊び等を豊かに展開するための教材や環境構成を習得し、実践力を養う。	1後	30	1		○		○		○		
○			音楽表現ＩＡ	領域「表現」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。特に、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現や環境構成などについて実践的に学ぶ。また、保育現場で必要な楽器演奏の基礎となる知識・技能を身に付け、子どもの音楽表現を支えるための感性を養う。	1前	30	1		○		○		○		
○			音楽表現ＩＢ	領域「表現」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。特に、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現や環境構成などについて実践的に学ぶ。また、保育現場で子どもたちと歌うための声楽分野の初歩を学び、子どもの表現を支えるための感性を養う。	1後	30	1		○		○		○		
	○		音楽表現Ⅱ	保育の現場で必要とされるピアノを通した音楽表現の基礎について学ぶ。特に、ピアノの基礎技術、童謡伴奏、弾き歌いの技術について習得し、保育におけるピアノの役割について理解する。さらに、身体運動における音楽の重要性について理解する。	1通	60	2		○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	子どもの歌(弾き歌い実践)	音楽表現を基盤として、子どもの成長の段階を踏まえた楽曲、生活の歌、園行事の歌を独自のメソッドにより修得し、実践的に弾き歌いの技術を高める事で、実習・就職後の音楽表表現がより豊かになるようにする為の授業である。	2前	30	1		○		○		○		
○			造形表現ＩＡ	領域「表現」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。造形活動の基礎である様々な用具や素材（土粘土、ハサミ、紙工作、接着剤、小刀、描画材など）との関わりや表現方法を学びながら、子どもの発達や特徴、造形表現の基礎的な知識・技術を学ぶ。また、子どもの造形表現を支えるために必要な感性や表現力を養う。	1前	30	1		○		○			○	
○			造形表現ＩＢ	領域「表現」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。造形活動の基礎である様々な素材（土粘土、絵の具、パスなど）との関わりや表現方法（感触遊び、季節を感じる造形表現）を学び、造形表現の基礎的な知識・技術を学ぶ。また、造形要素を含む運動遊び等の実践を通して、子どもの表現を支えるために必要な感性や表現力を養う。	1後	30	1		○		○			○	
○			子どもと言葉	領域「言葉」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。特に、領域「言葉」に示された保育内容を理解した上で、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な児童文化財や環境構成、及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。	2後	30	1		○		○		○		
		○	絵本学	人々が生きる上で、豊かな感性を育む教材として、絵本は欠かせない。また、絵本を専門的に取り扱う場合「知識を高める」「技能を高める」「読み手の感性を磨く」この三つの要素が必要である。授業では「お話会」「ワークショップ」を運営する技能、絵本の創作や編集に要する技能・技術を専門家をゲストスピーカーとして招き、学びを深めて行く。	2通	60	2		○		○		○		
○			保育者論（学校安全への対応を含む）	保育者の役割と倫理、制度的な位置づけについて理解する。保育者の専門性について考察し、実践と省察の重要性を理解する。保育における職員間、他職種や関係機関との連携について理解する。保育者の資質向上のためのキャリア形成の意義と組織的取組について理解する。	2後	30	2	○			○			○	
○			教育の原理と制度	教育の意義、目的、子ども家庭福祉との関連性、教育の思想や歴史的変遷、制度等を理解することで、教育の基礎的な理論を習得する。また、教育実践の基礎理論や多様な取り組みについて理解する。さらに、現代社会の生涯学習社会における教育の現状と課題について考察する。	1前	30	2	○			○		○		
○			保育原理Ⅰ	保育の意義及び目的について理解する。保育に関する法令、及び子ども・子育て支援新制度等の制度を理解する。保育所保育指針における保育の基本について理解する。諸外国や日本の保育の思想と歴史的変遷について理解する。諸外国や日本の保育の現状と課題について理解する。	1前	30	2	○			○		○		
		○	保育原理Ⅱ	保育原理Ⅰの既習内容を基礎として、さらに保育の重要性と保育の在り方について学ぶ。保育所、乳児院、児童養護施設、障害児施設等における保育者の位置づけや役割を理解する。子ども理解に基づいた保育者の専門性と資質を理解する。多様な保育ニーズを理解した上で、子どもや家庭への生活支援について考察する。	2前	30	2	○			○		○		
○			子ども家庭福祉	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。児童の権利に関する条約等を踏まえ、子どもの人権擁護について理解する。子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。貧困家庭や外国籍の子どもやその家庭への対応を含め、子ども家庭福祉の現状と課題について理解し、今後の動向と展望について考察する。	1後	30	2	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会福祉	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、及び子ども家庭支援の視点について理解する。社会福祉の制度と実施体系等、及び社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。少子高齢化社会における子育て支援や共生社会の実現に向けた障害者施策等、社会福祉の動向と課題について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			子育て支援	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援について、多様な場や対象に即した支援の内容と方法、技術を、具体的事例等を通して具体的に理解する。	2前	30	1		○		○			○	
○			子ども家庭支援の心理学	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。子どもの精神保健とその課題について理解する。	2後	30	2		○		○			○	
○			社会的養護Ⅰ	現代における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。社会的養護の制度や実施体系等について理解する。社会的養護の対象、家庭養護と施設養護の形態、関係する専門職等について理解する。社会的養護の現状と課題について理解する。	1後	30	2	○			○			○	
○			教育心理学	教育心理学とは何か、基本的な事項について理解をはかり、こどもの発達に則した対応をするための知識の獲得と、子育て支援に関する基礎的能力を養う。	1後	30	2	○			○			○	
○			発達心理学	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。乳幼児期の発達過程に関する心理学の基礎を習得し、養護と教育の一体性を踏まえた子ども理解を深める。乳幼児期の学びの過程に関する心理学の基礎を習得し、子どもへの相互的関わりや環境の意義について考察する。	1前	30	2	○			○			○	
○			子どもの理解と援助	保育実践において、子どもの実態に応じた心身の発達や学びを把握し、子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開の意義について理解する。子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基礎的な視点と具体的な方法を理解し、保育者の援助と態度について考察する。	2後	30	1		○		○		○		
○			子どもの保健	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。子どもの身体的な発達・発育と保健について理解する。子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。子どもの疾病とその予防法、及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。	1後	30	2	○			○			○	
○			子どもの健康と安全	保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、衛生管理、事故防止、安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策、子どもの体調不良や発達の状況等に即した適切な対応について理解する。また、子どもの健康及び安全管理の組織的な実施体制について理解する。	1前	30	1		○		○			○	
○			子どもの食と栄養Ⅰ	子どもの健康な生活の基本としての食生活の意義、及び食生活の現状と課題について理解する。栄養の基本的な知識について、献立作成や調理を通して理解する。発達段階に応じた子どもの発育・発達と生涯にわたる食生活の関連について理解する。	2前	30	1		○		○			○	
○			子どもの食と栄養Ⅱ	養護と教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、内容等、及び家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」等や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。	2後	30	1		○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			子ども家庭支援論	子育て家庭に対する支援の意義や役割、目的を理解する。保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本、関係機関との連携について学ぶ。子育て家庭に対する支援の体制を理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。	2前	30	2	○			○		○		
		○	臨床心理学	人と心の問題は切り離す事はできない。生きて行く上で生じるさまざまな心の問題について理解を深め、その評価方法を考えて行く。また、乳幼児の発達（知的障害、発達障害）における問題点を掘り下げ、支援のための技法を現場視線で学んで行く。	2前	30	1	○			○		○		
		○	医療的ケアが必要な子どもの保育	保育所は生活の基盤とした子どもとのかかわりの場であり、保育を通じて、子ども一人ひとりの心身共に穏やかな成長を保障することが求められる。医療的ケアが必要な子どもを持つ家庭が保育所に預ける必要が生じた時、保育環境を整え、安全に子どもを受入れる為に、どのような知識・技能が必要かを知り、実践に結び付けて行く授業である。	2後	30	1		○		○			○	
		○	子どもと心理学	子どもの主体的な活動を支える為には、包括的な支援が必要な場合もある。障害児支援は保育者同士が連携し、子どもの個性を見極めチーム保育を展開する。互いの協働・協調姿勢の基本をグループエンカウンターを活用して学ぶ。	2後	30	1		○		○		○		
○			保育・教育課程論	保育内容の充実と質の向上に資する保育計画と評価の基本について理解する。保育所保育指針等を踏まえ、全体的な計画と指導計画の関連性や作成の意義を理解し、作成方法の基礎を身に付ける。子ども理解に基づく保育課程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の全体構造を捉え、理解する。	1後	30	2	○			○		○		
○			保育指導法総論	保育所保育指針等に基づき、保育の全体的な構造と保育内容を総合的に理解する。さらに、子どもの発達や社会的背景、保育内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の基本的な考え方を保育の過程につなげて理解し、保育を営む視点を養う。また、現代社会における保育の多様な展開について理解する。	1前	30	1		○		○		○		
○			健康指導法	子どもの発達について、乳児保育の3つの視点や領域「健康」のねらいと内容を理解した上で、子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育内容や具体的な展開について理解する。また、子どもの健康教育に携わるための正しい知識を理解し、健康をめぐる諸問題を考察する。	2通	60	2		○		○		○		
○			人間関係指導法	子どもの発達について、乳児保育の3つの視点や領域「人間関係」のねらいと内容を理解した上で、子どもの生活や遊びを総合的に捉える。また、他人との関わりを通じて自己が形成され、自立心が養われることを理解する。子どもの発達過程に沿った他人との関わり方の変化を理解し、保育の際の配慮ができる実践力を養う。	2後	30	1		○		○			○	
○			環境指導法	子どもの発達について、乳児保育の3つの視点や領域「環境」のねらいと内容を理解した上で、子どもの生活や遊びを総合的に捉える。また、子どもをとりまく自然環境や社会環境を客観的に捉え、環境を通した保育内容について考察する。外遊びによって五官が刺激され、身体と頭を使うことによって心が豊かに育っていく意義について考察する。	1後	30	1		○		○			○	
○			子どもと環境	領域「環境」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。特に、子どもを取り巻く自然環境や生き物の姿、及び領域「環境」に示された保育内容を理解した上で、子どもの生活と身近な素材を用いた遊びを豊かに展開するための教材や環境構成、技術を習得し、実践力を養う。	1前	30	1		○		○			○	
○			言葉指導法	子どもの発達について、乳児保育の3つの視点や領域「言葉」のねらいと内容を理解する。保育におけるより良い言葉環境について考える力を養い、実践力を高める。言葉の発達や表現能力の向上、相手との言葉を通じたコミュニケーション力の獲得、また児童文化財との触れ合いや活用法などについて理解を深める。	2通	60	2		○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			表現指導法ⅠA	子どもの発達について、乳児保育の3つの視点や領域「表現」のねらいと内容を理解した上で、子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育内容や具体的な展開について理解する。また、感性の育ちや「感じて考えて行動する」表現の営みを理解する。	1前	30	1		○		○			○	
○			表現指導法ⅠB	子どもの発達について、乳児保育の3つの視点や領域「表現」のねらいと内容を踏まえ、子どもの表現力を育てるための保育者の役割を理解する。音楽と身体表現を用いた表現を実践的に学び、保育現場で音楽リズムを活用する方法を実践し、表現についての基本的な考えや豊かな表現的環境づくりについて理解する。	1後	30	1		○		○			○	
		○	表現指導法Ⅱ	表現指導法Ⅰにおける既習内容を基礎として、グループや個人による視聴覚教材（ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター、人形劇、影絵など）の制作、発表を行う。保育の1年間の生活の流れを踏まえて具体的な表現活動について理解を深める。	2後	30	2		○		○			○	
○			教育相談論	子どもの発達理解と相談支援、保護者への対応、発達障害や気になる子どもと保護者への関わり、保育現場でのカウンセリング技法等、事例学習や研究発表を中心に保育・教育相談の基礎を身につける。	2通	60	2		○		○		○		
○			乳児保育Ⅰ	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。	1前	30	2	○			○		○		
○			乳児保育Ⅱ	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びを理解し、保育の方法や環境構成、配慮の実際について理解する。乳児保育における計画の作成について、長期的・短期的・個別的・集団的計画の作成を通して理解する。	1後	30	1		○		○		○		
○			特別支援教育・保育概論	特別支援教育・保育に関する理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。各種障害に関する知識を深め、保育の中での対応について理解する。特別に支援が必要な児童、障害のある児童に対する保育計画の作成や家庭への支援、関係諸機関等との連携、現状と今後の課題等について学び、理解を深める。	2通	60	2		○		○			○	
○			社会的養護Ⅱ	子ども理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容を理解する。施設養護及び家庭養護の生活特性と実際、さらに社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。保育の専門性に関わる相談援助の方法・技術について学び、子どもの虐待防止と家庭支援について理解する。	2前	30	1		○		○			○	
		○	保育活動実践演習Ⅰ	保育者として、必要な知識・技能のみならず、全人的な教育を教授することで、人間的な厚みが構築される。 様々な教育活動を通じて「子ども」「保護者」また、地域社会に貢献できる人材育成の為の授業を展開する。	1通	60	2		○		○	○	○		
		○	保育活動実践演習Ⅱ	保育者は専門的な知識・技能を習熟し、且つ実践力を養う事が肝要である。今後の保育者の在り方として、学生一人ひとりの個性に合った分野を掘り下げ、保育者としてより質を高める為専任教員全員がゼミ形式で保育界でトレンドとなっている話題を学生に提供し、専門分野を追及する。	2通	30	1		○		○	○	○		
○			教育実習指導	幼稚園実習での学びを深めるために、事前準備と事後学習を行う。実習の意義・目的・内容・段階の理解、幼稚園の制度と教育基本等の基礎理論をベースとし、保育実技・実習日誌・指導案と併せて体系化を目指す。	1通	45	1			○	○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			教育実習	２４日間を春期と秋期の２期に分けて実施する。春期は観察実習・参加実習を中心に指導実習を行う。秋期は参加実習・指導実習を中心に進められる。保育の計画立案から準備、実践のすべてを体験的に学び、実習期間を通じて毎日実習日誌をつける。	2前	180	4			○		○	○		○
○			保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰ－保育所、及び施設の実習に向けた事前事後学習を行う。①保育実習の意義・目的を理解する。②実習内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。③子どもの人権や最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。④実習の計画、実践、記録等の方法や内容について理解する。⑤事後指導を通して自己評価を行い、自己課題を明確にする。	1通	60	2		○		○		○		
○			保育実習Ⅰ-保育所	12日間90時間以上の保育所実習を行う。①保育所の役割や機能を具体的に理解する。②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。③既習の学習内容を踏まえ、保育内容や保育環境、及び保育の計画、記録等について実践を通して理解を深める。④保育士の業務内容や職業倫理について理解する。	1後	90	2			○		○	○		○
○			保育実習Ⅰ-施設	12日間90時間以上、保育所以外の児童福祉施設等で実習を行う。①施設における利用者の生活と保育士の援助について理解する。②観察や利用者との関わりを通して利用者への理解を深める。③施設における利用者の生活や環境、支援計画や記録の方法について理解する。④専門職としての保育士の役割や職員間の連携について理解する。	2前	90	2			○		○	○		○
	○		保育実習指導Ⅱ	保育実習指導Ⅰに引き続き、保育実習Ⅱのための事前事後学習を行う。①保育実習Ⅰ－保育所における自己課題を明確にする。②保育計画（指導案）の意義を理解し作成を行う。③保育実践力の習得のための模擬保育を行う。④保育の観察の仕方、考察や省察の書き方を理解する。⑤事後学習を通して実習の総括を行い、自己課題を明確にする。	2通	30	1		○		○		○		
	○		保育実習Ⅱ	12日間90時間以上に保育所実習を行う。①保育実習Ⅰ-保育所における実習で習得したことを踏まえ、保育士として必要な資質・能力・技術を向上させる。②保育士の業務内容や職業倫理について、実践に結び付けて総合的に理解する。③社会における保育所の実態から、家庭や地域との関係や子育て支援などの理解を深める。	2前	90	2			○		○	○		○
○			保育・教職実践演習	教科学習や教育・保育実習での学びを踏まえて、保育者としての知識や技能の修得を確認し、保育者として必要な社会性、対人関係能力、実践力等を養う。特に、実習での体験をもとにして、乳幼児に対する理解や関わりの在り方、保護者との関係構築の方法等について、グループワークやロールプレイングなどを用いた実践的な演習を行う。	2後	60	2		○		○		○		
合計				61科目	2430単位時間（　　96単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
（卒業要件）２年以上在学し、学則第１５条により課程終了の認定を受けた者 （履修方法）２年以上在学し、教育職員免許法及び児童福祉法の規定により、学則別表１の授業科目を履修する。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	20週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。